

整形外科・リウマチ外科

研修指導者名

小宮 節郎 米 和徳 石堂 康弘 山元 拓哉 横内 雅博 瀬戸口 啓夫
永野 聡 梶 博則 精松 昌彦 泉 俊彦 富永 博之

メッセージ

整形外科医療では手や足、背骨や脊髄などの各種疾患を扱います(図)。外傷・救急医療、加齢に伴う関節疾患・脊椎疾患などが多く、整形外科医は痛みと変形、機能障害に対する治療を担います。今や日本は超高齢者社会に突入しており、鹿児島県でも高齢化は著明です。高齢者では背骨や関節、筋肉の機能が極度に低下しており、日常生活に大きな支障を生じやすくなっています。これをロコモティブシンドローム(略してロコモ)と呼び、整形外科医療の対象患者さんおよびその予備軍が益々増加しています。

整形外科医療の実際には、医療スタッフは患者さんの心の支えになり、病気の原因を解決する薬物療法、運動療法、手術、リハビリテーションなどを提供します。手術では背骨の矯正手術や膝などの人工関節手術を行うこともあります。手術は確かに患者さんの期待に応えはしますが、将来的にはこのような変形を来さないような予防的取り組みが可能になると思います。そのために基礎科学研究があります(図)。当科では臨床修練が一定のレベルに達した時点で、希望者には基礎研究の機会も提供し、若い力で新たな診断・治療法の開発を目指しています。

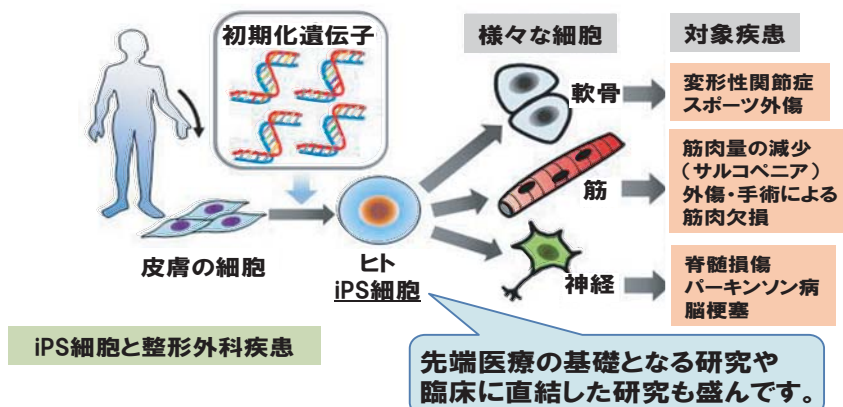
当教室では、幅広い知識と技量、患者さんとの円滑な関係を保てるコミュニケーション能力、臨床基礎研究力をそなえた総合的な“力”をもった整形外科医の育成を目指しています。



整形外科は多岐にわたる社会のニーズに対応している診療科です。



脊柱側彎症手術
(bio-clean room)



iPS細胞と整形外科疾患

先端医療の基礎となる研究や臨床に直結した研究も盛んです。



研修目標

幅広い整形外科運動器疾患の診断学、保存療法、手術療法の習得により、一般開業医医療レベルまでの到達を目指す。整形外科特殊技術の取得により、ほぼ全般の手術に対応できるようにする。

研修可能技能

四肢外傷、骨折、脱臼の初期治療、小児を含む骨・関節・脊椎疾患・骨軟部腫瘍の診断学、関節注射、神経ブロック注射、関節造影、脊髄造影など。マイクロサージェリー訓練、膝、股、肩などの関節鏡技術、脊椎内視鏡の使用技術、形成技術、皮膚・筋肉・骨関節・血管・神経の移植技術、人工関節置換技術、電気生理学的（筋電図・エコー・筋力測定など）検査技術

取得できる専門医資格技能

日本整形外科学会整形外科専門医、脊椎脊髄病医、リウマチ医、スポーツ医、
日本リウマチ学会認定医、日本脊椎脊髄病学会指導医、日本手外科学会専門医など

特徴

整形外科の特徴はその取り扱う疾患、解剖学的部位の幅広さにある。

将来的には専門性をもった整形外科医となることを目標とするが、後期研修の期間に、可能な限り幅広い分野の研修ができるように、特色の異なる施設での研修を計画している。たとえば、鹿児島県の最も高度な受け入れ病院としての大学病院では、高度変形を持つ脊柱側弯症、人工関節置換術後の感染・再置換、悪性骨軟部腫瘍など他では研修できない疾患を、各グループに3か月程度ずつ配属し多くの指導医から指導を受ける。また、鹿児島市立病院、今給黎総合病院では多数の救急・外傷疾患を、南風病院では、透析や慢性疾患の症例をそれぞれ多数経験し、幅広い分野を学び整形外科医としての基礎を形成することが可能である。

研修参加条件

卒後臨床研修修了者

研修施設

鹿児島大学附属病院と鹿児島市内の3病院（鹿児島市立病院、今給黎総合病院、南風病院）、を2年間で3～6ヶ月毎にローテーションする。大学で脊椎、関節、腫瘍、スポーツ、マイクロサージェリー等の慢性疾患（小児を含む）を研修する。大学外で外傷、リウマチ、脊損等の急性期・救急医療を研修する。

研修期間

日本整形外科学会入会6年後、専門医受験資格あり。
大学院入学者は卒業までの4年間に学位取得可能。
大学院修了後に海外留学の道あり。



研修プログラム

出身大学や初期研修施設に関係なく鹿児島大学整形外科の教室員として入局していただきます。初期研修で整形外科の研修経験がなくても全くかまいません。大学病院や鹿児島県内外の関連病院（25施設）での臨床修練を積み、入局後5 - 7年で取得可能となる日本整形外科学会専門医取得を最低限の目標にさせていただきます。日整会専門医取得後は専門の分野でスペシャリストとして高度な技術の取得を目指します。

入局後1年間は大学病院、鹿児島市内の関連病院（鹿児島赤十字病院、今給黎総合病院、南風病院）での研修をします。後期研修1年目での術者としての手術件数は50件を目標としています。2年目以降は大学およびその他関連病院で研修します。日整会専門医取得までの研修目標として、先ず手術を含め一般外傷の治療、基礎的手技、診断学を学び、徐々に関節鏡や人工関節、脊椎疾患等々慢性疾患を含め多くの手術を経験と専門的診断学や技術の取得を目指します。当然のことながら日整会専門医取得に必要な14分野をすべてカバーできるように研修体制を整えています。

研修病院の症例実績

H26年手術実績	年間総数	外傷	脊椎疾患	関節外科
鹿児島市立病院	613	479	0	56
今給黎総合病院	1165	655	246	169
南風病院	908	226	344	231

現在研修中の医師数

	大学内(うち大学院生の数)		大学外
卒後3年目	3	(0)	1
卒後4年目	0	(0)	4
卒後5年目	0	(0)	3

プログラムの募集人員及び選考

【募集人員】 10名前後

研修と大学院の関係

大学院入学は可能な限り推奨しているが、入学時期については特定していない。海外留学は大学院終了後、大学院時の実績・本人の希望に応じて行っている。国内臨床留学は専門医習得後、専門領域に応じて3ヶ月～1年の短期留学を行っており脊椎、スポーツ整形などの専門技術の交流・習得の道を開いている。

処 遇

大学病院の医員としての待遇。健康保健、医療保障保険あり。
収入面では学外研修を加算され、家族持ちでも十分な収入が得られる。

研修終了後の進路

日本整形外科学会専門医取得後、関連病院医長出張を2年間行い以後整形外科専門領域の習得をめざす。

指導医・専門医

日本整形外科学会専門医	20	日本脊椎脊髄病学会指導医	7
日本リウマチ学会認定医	1	日本整形外科学会認定スポーツ医	2
日本がん治療認定医機構	がん治療認定医	2	

プログラムに関する問い合わせ窓口

鹿児島大学整形外科学
〒890-8520 鹿児島市桜ヶ丘8丁目35番1号
TEL:099-275-5381
E-mail : seikei@m2.kufm.kagoshima-u.ac.jp

